

コミュニケーション及びスイッチに関する機能評価の流れ

氏名： 様 評価日： 年 月 日

〈意思伝達能力状況〉

- ・厚生労働省による ALS 重症度分類(重症度 5 の場合は, 林らによる意思伝達能力 Stage 分類のチェック):

☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5

- ・林らによる意思伝達能力 Stage 分類 (Stage) : ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5

〈重症度評価〉

□ALSFRS-R /48 点

(言語 /4, 唾液分泌 /4, 嚥下 /4, 書字 /4, 摂食動作 /4, 着衣・身の回りの動作 /4, 寝床での動作 /4, 歩行 /4, 階段をのぼる /4, 呼吸困難 /4, 起坐呼吸 /4, 呼吸不全 /4)

〈呼吸機能〉

□SP02 () % , (ルームエア・O2 使用 L) , 気管切開 (有・無)

〈認知機能〉

□MMSE () /30 点 特記事項 ()

□FAB () /18 点 特記事項 ()

□コース立方体組み合わせテスト IQ () 点数 () 点

〈日常生活活動〉

□Barthel Index (B. I) () /100 点

食事 /10 点, 移乗 /15 点, 整容 /10 点, トイレ /10 点, 入浴 /5 点, 歩行 /15 点,
階段 /10 点, 更衣 /10 点, 排尿 /10 点, 排便 /10 点,

□機能的自立度評価表 (FIM) () /126 点

食事 / 7 点, 整容 / 7 点, 清拭 / 7 点, 更衣 / 7 点, トイレ / 7 点, 排尿 / 7 点, 排便 / 7 点, 移乗動作 (ベッド・椅子・車椅子) / 7 点, トイレ移乗 / 7 点, 浴槽・シャワー移乗 / 7 点, 歩行・車椅子 / 7 点, 階段 / 7 点, 理解 / 7 点, 表出 / 7 点, 社会的交流 / 7 点, 問題解決 / 7 点, 記憶 / 7 点,

〈QOL〉 必要に応じて実施

☐SEIQoL-DW ☐ALSAQ-40

〈抑うつ評価〉

HADS (Hospital Anxiety and Depression Scale)

〈運動機能評価〉

- ・筋力（R/L）：
- 握力（ kg/ kg）
- ピンチ力 Ⅱ指（ kgf/ kgf） Ⅲ指（ kgf/ kgf） 3指（ kgf/ kgf）
- 膝伸展力（ kgf/ kgf）
- modified Ashworth scale(MAS)
- 0 □1 □1+ □2 □3 □4 特記事項（ ）
- ・ROM：
- （制限部位 ）
- ・上肢機能テスト：□STEF（R /100点, L /100点） □失調（有・無）部位；
- ・歩行能力
- 5回起立（ ）秒 □TUG 快適/努力（ ）秒/（ ）秒
- 10m歩行 快適/努力（ ）秒/（ ）秒
- 6分間歩行テスト（ ）m
- ・頸部：
- 支持性：□抗重力位で保持可能 □ヘッドレストやネックカラーなど装具が必要 □保持不可能
- 可動性：□制限がない □制限がある（部位； ）
- ・視機能：
- 合併症：□白内障 □緑内障 □糖尿病 □その他（ ）
- 眼球位置：□正常 □斜視 □偏視 □突出
- 視野：□制限なし □制限あり（方向： ）
- 視力：□裸眼 □メガネが必要 □その他（ ）
- 瞬き：□可能 □不十分
- 眼振：□なし □ある（方向： ）
- 複視：□なし □ある
- 注視：□可能 □不可能
- 追視：□可能 □不可能
- 視野：□制限なし □制限あり（ ）

■操作部位に関する現状の能力と、予後予測も含めた操作能力評価

- ・姿勢能力：Hoffer 座位能力分類 ☐1 ☐2 ☐3
- ・機器使用時の姿勢：☐ベッド上（臥位，背上げ） ☐端座位
☐車椅子座位（スタンダード，モジュラー，ティルト，ティルトリクライニング）
- ・姿勢耐久性：
- 車椅子：☐30 分未満 ☐30 分～1 時間程度 ☐3 時間程度 ☐半日 ☐一日
- ☐ベッド上：☐30 分未満 ☐30 分～1 時間程度 ☐3 時間程度 ☐半日 ☐一日

〈スイッチ操作の活用部位〉

（各項目の優先順位 3 つ選択して数字を記載し、現在使用できる部位全てに○を記載）

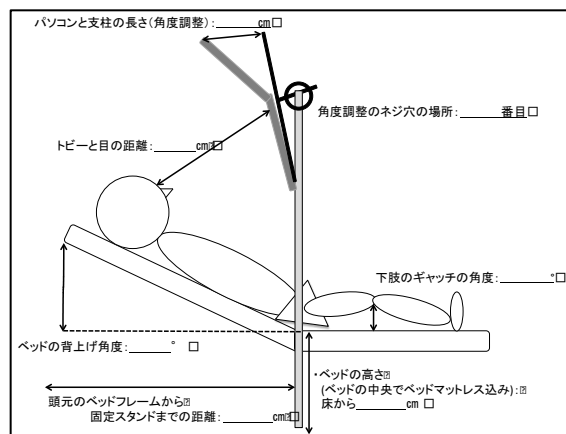
セラピスト 評価優先順位	ナース評価 優先順位	使用可能
()	()	() 頭部：首が動き、頬や頭部でスイッチを押すことができる
()	()	() 腕：肩が動き、腕や肘でスイッチを押すことができる
()	()	() 手掌：手首が動き、手掌でスイッチを押すことができる
()	()	() 指：手首は動かないが、指でスイッチを押すことができる
()	()	() 額、頬、顎：それぞれの部位を動かすことができる
()	()	() 唇、舌：それぞれ部位を動かすことができる
()	()	() 瞬き：意識的に目を閉じることができる
()	()	() 眼球：目を動かすことができる
()	()	() 呼吸：息を吸う、吐くことで圧変化をおこすことができる
()	()	() 発声：声を出すことができる

■病院におけるコミュニケーション機器の設定方法

〈確認事項〉

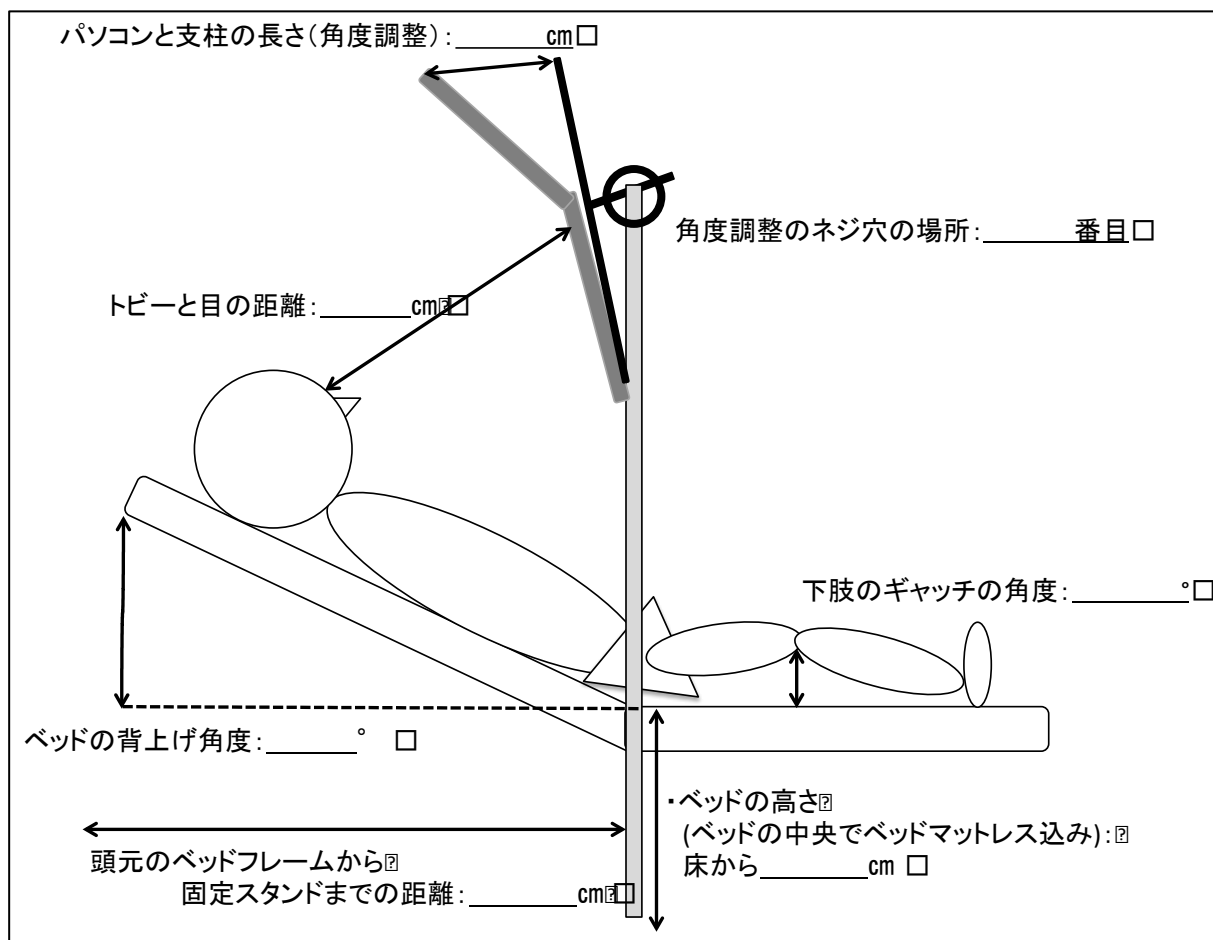
- ☐ ナースコール調整の確認 ☐ 呼吸器の邪魔にならない場所でセッティング出来ているか
- ・ 使用機器：☐ TC スキャン ☐ オリヒメ ☐ ハーティーラダー ☐ オペレートナビ
 - ・ スイッチ：☐ 視線検出入カスイッチ（tobii）
☐ 空気圧式スイッチ（ピエゾニューマティックセンサースイッチ）
☐ その他 スイッチ（ ）
 - ・ 機器使用時の姿勢：☐ ベッド上（臥位、背上げ） ☐ 端座位
☐ 車椅子座位（スタンダード、モジュラー、ティルト、ティルトリクライニング）
 - ・ 車椅子角度：ティルト _____°， リクライニング _____°
 - ・ テーブル高さ：床から _____cm

〈設定〉（詳細設定は別紙に記載）



備考：

詳細設定：



備考(特記事項)：

■自宅のコミュニケーション機器の最終設定方法

〈確認事項〉

- ☐ 自宅内コンセント ☐ 呼吸器の邪魔にならない場所でセッティング出来ているか
- ・ Wi-Fi の有無：☐ ある ☐ ない
- ・ 家族指導：☐ とても出来ている ☐ 出来ている ☐ 出来ていない ☐ ほとんど出来ていない
- ・ 他職種指導：☐ 看護師 ☐ 訪問看護 ☐ 訪問リハビリ ☐ ヘルパー

〈スイッチ装着部位に関する確認事項〉

- ☐ 身体の動きが最大の部分を観察 ☐ 長時間の使用で身体的な問題点（疲労や痛み）をチェック
- ☐ 介護者の問題を支援できるか ☐ 局所的な筋緊張の継続による、筋力低下のチェック
- ☐ 残存機能で利用可能なスイッチの選択 ☐ 本人の内省を確認できているか

〈コール(スイッチ)適合上の留意点（田中による）の確認事項〉

- ☐ 患者の要望をくみ取り，24 時間の利用を考え正確に操作できる身体部位を選択する
- ☐ 本人が使いやすいだけでなく，スイッチを設定する人が行いやすいよう考慮する
- ☐ 複数の人がスイッチの設置をする場合，設置方法をマニュアル化して常に一定の設置が行える
- ☐ 額部に張り付けるようなスイッチを使用する場合は、皮膚の炎症を起こさないように日中一時取り外し、日によって張り付ける位置を変えるなどの方法をとる（皮膚の衛生管理）
- ☐ 操作したスイッチがコールとして正確に作動しているか患者が不安な場合，ブザーやライトで操作が確認（フィードバック）出来るものにする
- ☐ 不随運動や瞬時の動きで誤動作が生じる場合，一定時間持続して入力があれば作動（入力保持）するものにする

■介入時の確認事項

現在のコミュニケーション手段：

- ☐ 道具を使わない
 - ☐ 簡単な道具を使ったコミュニケーション方法（ローテク用）
 - ☐ 電子機器を使用したコミュニケーション方法（ハイテク用）
- 上記でチェックした項目の具体的な方法： _____

■今後に向けた確認事項

- ・ コミュニケーションの方法に関しての今後の対応：
 - ☐ 現状のままで様子観察 ☐ 今後対応が必要と思われる ☐ すぐに変更が必要
- ・ コミュニケーションで望むことや余暇時間にしたいこと：
 - ☐ ネットサーフィン ☐ メール ☐ LINE ☐ SNS ☐ 写真閲覧 ☐ 動画鑑賞
 - ☐ 自分の声で会話したい ☐ 音楽鑑賞 ☐ 環境制御（電気や TV を自分で操作する）

・現在のコミュニケーション方法に対して：

本人： ☐満足している ☐していない

家族： ☐満足している ☐していない

・正確にコミュニケーションを取ることが出来ているか：

本人： ☐とても出来ている ☐出来ている ☐出来ていない ☐ほとんど出来ていない

家族： ☐とても出来ている ☐出来ている ☐出来ていない ☐ほとんど出来ていない

■今後のコミュニケーション方法に関して（使用項目に☑と具体的な手段に○をつける）

〈現在の実用的な評価を踏まえたコミュニケーション方法（併用も含む）〉

☐道具を使わない：

☐YES-NOの方法 ☐身振り ☐文字 ☐空書（指文字） ☐まばたき

☐簡単な道具を使ったコミュニケーション方法（ローテク用）

☐透明文字版 ☐文字版 ☐筆談 ☐ホワイトボード

☐電子機器を使用したコミュニケーション方法（ハイテク用）

☐TC スキャン ☐オリヒメ ☐ハーティーラダー ☐オペレートナビ ☐その他（ ）

■その他（何か希望等があれば記載）

初版：長崎北病院

第2版：長崎大学病院難病対策センター

編集：光永 済（長崎大学病院 作業療法士）